古河市・鎌倉市 文化観光交流協定事業

古河文学館・鎌倉文学館巡回企画展

生誕100年
永井路子展

2025年 10月25日(土)～12月23日(火)

■開館時間　午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）
■入 館 料　一般200円　小中高50円
■休 館 日　月曜日（祝日の場合は翌日）　第4金曜日
■交　　通　JR宇都宮線古河駅徒歩15分
東武日光線新古河駅徒歩25分
東北道　久喜IC 40分　館林IC　30分
圏央道　五霞IC 25分　境古河IC 30分

◆関連イベント◆

◎記念鼎談
「名誉市民　歴史小説家・永井路子先生を偲ぶ」
日時：11月2日(日)　14:00　定員：50名程度

◎学芸員によるギャラリートーク
日時：11月22日(土)　11:00　定員：15名程度

◎古屋和子ひとり語り「黒雪賦(『炎環』より)」
日時：11月29日(土)　14:00　定員：60名程度

※費用・お申込み方法等の詳細は左記のURL(2次元コード)でご確認ください。

古河文学館
〒306-0033　茨城県古河市中央町三丁目10番21号
TEL 0280-21-1129　FAX 0280-21-1135
URL https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/soshiki/6_1/exibitionformation/gallery1/20997.html

【鎌倉会場の開催情報】
会　期　2026年2月21日(土)～3月22日(日)　※休館日　3月4日(水)・18日（水）
会　場　鎌倉芸術館　ギャラリー2（鎌倉市大船6-1-2）
問合せ　公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団　TEL 0467-23-3911

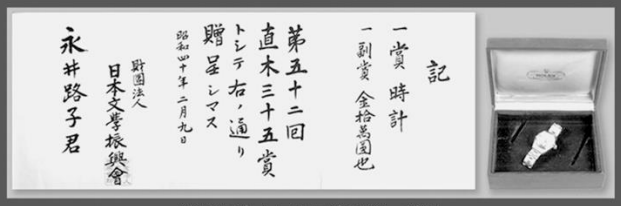
古河市・鎌倉市　文化観光交流協定事業
古河文学館・鎌倉文学館 巡回企画展

生誕100年 永井路子展

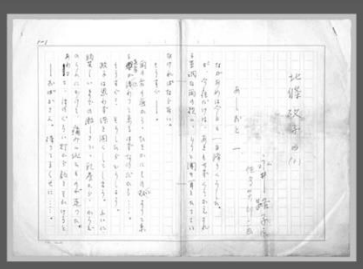
本年令和7年は昭和100年、大正14年生まれの歴史小説家・永井路子の生誕100年にあたります。
「歴史とはなにか、人間とはなにか」そして「歴史小説とは歴史現象としての人間を描くことだ」と思い続け、丹念な史料検討に基づく斬新かつ精緻な歴史解釈とユニークな小説技法を駆使し、数々の傑作を世に送り出してきた永井路子。作中で示された独自の歴史観は、文壇のみならず歴史学界においても高く評価されるなど、まさに一時代を画した稀有な歴史小説家でした。
本展では永井路子の生涯をたどりつつ、あらためて、永井が目指した歴史小説の真髄に迫りたいと思います。
なお、本展は古河と鎌倉両市の名誉市民であった永井路子がきっかけとなって締結された文化観光交流協定に基づく事業として、古河文学館・鎌倉文学館との巡回企画展として開催いたします。

叔父三郎が書きとめた成長記録
手形・足形は永井路子3歳の時のもの

父八郎治が書いた命名書



第52回直木三十五賞目録・時計



自筆原稿「北條政子」（鎌倉文学館蔵）

自筆原稿「氷輪」

第50回毎日芸術賞賞状

『永井路子歴史小説全集』全17巻

永井路子 略年譜

大正14年（1925）	3月31日、東京市本郷区弥生町（現、文京区弥生）に生まれ、父永井八郎治・母まつの長女として入籍。実父は来島清徳（山口県出身、東京帝国大学工学部卒）、実母は永井智子（声楽家、八郎治の姪）。永井本家（八郎治家）に嗣子がなかったため、誕生以前から清徳と智子の子は八郎治家への入籍が決まっていた。ほどなく茨城県猿島郡古河町（現、古河市）で茶商・陶漆器商を営んでいた八郎治家に移る。
昭和 6年（1931）	古河女子尋常高等小学校（現、古河第一小学校）入学。
昭和11年（1936）	5月、父八郎治没、永井家の戸主となる。以後、同居していた叔父・三郎夫妻の庇護をうける。
昭和12年（1937）	茨城県立古河高等女学校（現、古河第二高等学校）入学。
昭和16年（1941）	東京女子大学国語専攻部入学。国語、国文学を正統的に学ぶ。在学中の愛読書は『万葉集』。
昭和19年（1944）	9月、戦争の余波で東京女子大学を繰り上げ卒業。
昭和22年（1947）	東京大学経済学部聴講生となり日本経済史を学ぶ。
昭和24年（1949）	5月、黒板伸夫と結婚。11月、小学館に入社、創刊準備中の『女学生の友』の編集に携わる。
昭和27年（1952）	1月、創刊30年記念『サンデー毎日』懸賞小説に応募した「三條院記」が二席となり、同誌の新春特別号に掲載される。
昭和29年（1954）	3月、第3回オール新人杯に応募した「下剋上」が次席となり『オール讀物』に掲載される。
昭和35年（1960）	雑誌『マドモアゼル』創刊にともない、小学館初の女性副編集長に就任。
昭和36年（1961）	『オール讀物』4月号に発表した「青苔記」が第45回直木賞候補になったのを機に小学館を退社。
昭和37年（1962）	同人誌『近代説話』の同人となり、「悪禅師」「黒雪賦」「いもうと」を発表。
昭和39年（1964）	10月、『近代説話』に発表した3作に「覇樹」を書き加え『炎環』と題して出版。翌年第52回直木賞を受賞。
昭和42年（1967）	初の新聞小説「北条政子」を新潟日報、北國新聞、埼玉新聞などに連載。
昭和54年（1979）	『炎環』『北条政子』『つわものの賦』などを原作に、ＮＨＫ大河ドラマ「草燃える」放映。
昭和57年（1982）	10月、『氷輪』で第21回女流文学賞を受賞。
昭和59年（1984）	11月、難解な史料をもとに歴史小説に新風をもたらした功績（主に『この世をば』）で第32回菊池寛賞を受賞。第33回神奈川文化賞を受賞。
昭和61年（1986）	11月、風致保存への寄与で鎌倉市市政功労者表彰。
昭和63年（1988）	4月、『雲と風と』及び一連の歴史小説で第22回吉川英治文学賞を受賞。
平成 9年（1997）	『山霧』『元就、そして女たち』を原作に、ＮＨＫ大河ドラマ「毛利元就」放映。3月、ＮＨＫ放送文化賞受賞。11月、茨城県特別功績章受賞。
平成10年（1998）	9月、鎌倉市名誉市民となる。10月、永井路子の旧蔵品を中核資料として、古河文学館開館。
平成11年（1999）	4月、鎌倉文学館で「特別展 永井路子展」開催。
平成15年（2003）	9月、古河市名誉市民となる。10月、古河文学館にて特別展「永井路子展」開催。特別展に合わせて永井路子旧宅を修復、一般公開開始。
平成20年（2008）	3月、構想から四十数年を経て『岩倉具視―言葉の皮を剥きながら』を刊行、翌年第50回毎日芸術賞を受賞。
平成28年（2016）	12月、前年に刊行した夫との共編『黒板勝美の思い出と私たちの歴史探究』で第27回大衆文学研究賞を受賞。
令和 5年（2023）	1月27日逝去。行年97歳。